

## 学力向上にかかわる学校経営方針

- 生徒の実態、学力調査等のきめ細かな分析により、改善への方策を明確にする。
- 言語活動の充実を図り体験的な学習を取り入れた授業展開をすべての教科、領域で積極的に実施するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。
- 学習のねらいと振り返りの場面の設定を明確にし、基礎的、基本的な学習の定着と活用力の育成に努める。
- 少人数指導やチームティーチングを効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。
- ICT機器を積極的に活用し、生徒の主体的な授業参加により、情報活用能力、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- 朝読書や図書館教育を充実させ、生徒の読書力を伸ばし、生き方を考え、生徒の教養を高める。
- 生徒一人一人に応じた、きめ細かな指導を進める。
- 通常学級における支援を必要とする生徒への指導体制の整備を進める。
- 授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰にとってもわかりやすい授業づくりに努める。
- 特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習の充実を図る。

## 現状と課題（県の学力学習状況調査等の分析結果）

- ・県の学力学習状況調査では、2年生が3つの領域（聞くこと・読むこと・書くこと）において県・市の平均正答率を上回っている。3年生の書く能力以外は、県・市の平均正答率を上回っている。
- ・2年生では「英文を読み取り適切な前置詞を選択する問題」「Eメールを読んで、重要な内容やことがらを理解する問題」が低かった。
- ・3年生では、過去の状態を問う質問や不定詞、与えられたテーマについて理由を書く英作文の正答率が低かった。
- ・2・3年生共に、授業でまとめた内容の文章を書く課題を取り入れているが、いずれの学年でも「書くこと」に対する苦手意識を減らしていくことが必要である。

## 課題解決のための方策

- ・効果的なALTとのTTの授業、JETとのTTを構成する。
- ・TTの効果的な活用を図る。  
(準備や活動が遅れがちな生徒への声掛けや応用的で発展的な学習の補助。)
- ・日本人が取得することが困難な文法（1年では三人称単数、2年では不定詞、3年では現在完了形と関係代名詞）の基礎基本の徹底をする。
- ・実用英語技能検定の対策をする。
- ・教員の英語による授業展開を行う（8割を目指す）。
- ・生徒の英語使用率を上げる。                      ・教員の英語力向上を図る。

## 授業における指導の工夫

- ・英語で授業をなるべく行い、生徒が英語と関わる時間を増やす。
- ・ALTとのパフォーマンステストを学期に1度実施する。
- ・低学力の生徒への個別での対応や、きめ細かい指導を行い、知識理解を徹底させる。
- ・全学年、同じような帯活動を行う。(会話活動、スペリングテスト、リスニングなど)
- ・グループ活動を通して、教え合い、学び合いの場を増やし、英語に対する関心意欲を高めていく。
- ・授業において、生徒たちの学習の状況に応じた手だてに関して共通理解を図り、JET同士でT1・T2間の連携を図る。
- ・ICTを効果的に活用し、生徒の英語に対する関心意欲を高めていく。
- ・課題解決学習を取り入れ、主体的で、対話的な活動を行っていく。